

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	川村学園女子大学
設置者名	学校法人 川村学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	国際英語学科	夜・通信	12	-	20	32	13	
	史学科	夜・通信			14	26	13	
	心理学科	夜・通信			12	24	13	
	日本文化学科	夜・通信			14	26	13	
教育学部	幼児教育学科	夜・通信		-	22	34	13	
	児童教育学科	夜・通信			27	39	13	
生活創造学部	生活文化学科	夜・通信		-	22	34	13	
	観光文化学科	夜・通信			24	36	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://syllabus.kgwu.ac.jp/rishuan/2019/jitsumu.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	川村学園女子大学
設置者名	学校法人 川村学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.kawamura.ac.jp/gakuen/info.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	ダイキン工業（株） 特別顧問	令和元年5月30日～ 令和6年5月29日	教学に関する事項。 教育委員会教育委員の経験を踏まえて法人全体及び各学校の教育に関して意見する。
非常勤	前 清水建設（株） 常任顧問	令和元年5月30日～ 令和6年5月29日	財務に関する事項 企業での執行役員、常任顧問の経験を踏まえ、本法人の経営・財政について客観的な見解を示す。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	川村学園女子大学
設置者名	学校法人 川村学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>12月にシラバス作成に関するFD研修を開催する。 各教員はFD研修の内容及び「シラバス作成のためのガイドライン」に基づき、1月中にシラバスの入稿を行う。 入稿期間終了後、学科長等がシラバスの内容確認・修正指示を行い、シラバスの内容に不備のあった教員は修正を行う。 全シラバスの入稿が完了する3月中旬から下旬にホームページ上にシラバスを公開している。 全学的に同様の取り扱いをしている。</p>	
授業計画の公表方法	http://syllabus.kgwu.ac.jp/kougi-index.asp?mode=search
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各学生の学修成果を、学生の授業への取り組む姿勢・試験結果・レポートの内容・卒業論文・ルブリックによる評価等により多元的に把握している。 上記の方法により把握した学生の学修成果を、シラバスに記載された成績評価の方法及び基準により、厳格かつ適正に評価して単位を与えている。 全学的に同様の取り扱いをしている。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学生の成績がどの位置にあるかを把握できるよう、履修規程に定めるG P Aを用いて表す仕組みを導入しており、G P Aの平均値及び各学年の分布状況について、ホームページ上に公開している。</p> <p>各授業科目において成績評価を行う際には、原則としてAA：0～10%、A：10～30%の範囲内で評価を行い、AAとAを合わせて30%を超えない範囲で評価するものと定めている。</p> <p>G P Aの算出方法は以下のとおりである。 成績評価：AA…4、A…3、B…2、C…1、D・N…0 G P A…(履修登録科目のG P×当該科目の単位数)の総和÷履修総単位数</p> <p>全学的に同様の取り扱いをしている。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/r1seiseki_gakui.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>教学マネジメント会議において、卒業の認定に関する方針としてディプロマ・ポリシーを策定し、ホームページ上に公開している。</p> <p>ディプロマ・ポリシー及び学科毎に定められた単位数の修得状況を踏まえて、教授会において卒業判定を行い、その審議結果に基づき学長が卒業を認定し、学位を授与している。</p> <p>全学的に同様の取り扱いをしている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2018/07/h30ap_cp_dp.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	川村学園女子大学
設置者名	学校法人 川村学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.kawamura.ac.jp/gakuen/info.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.kawamura.ac.jp/gakuen/info.html
財産目録	http://www.kawamura.ac.jp/gakuen/info.html
事業報告書	http://www.kawamura.ac.jp/gakuen/info.html
監事による監査報告(書)	http://www.kawamura.ac.jp/gakuen/info.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/h30jikotennken.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kgwu.ac.jp/guide/ninshouhyouka/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/h30jikotennken.pdf P11)
(概要) 文学部は、国際英語学科・史学科・心理学科・日本文化学科からなる。各学科の人材養成の目的は、国際英語学科が「教養に裏打ちされた語学力を修得し、世界の人々とコミュニケーションを図ることのできる人材の養成」、史学科が「日本と世界の歴史と文化に対する理解を深め、それを現代社会の諸問題に応用できる人材の養成」、心理学科が、「認知、社会、発達、臨床の多領域にわたる専門的知識を修得し、人々の心を探究し、自己をとりまく環境をより豊かにしていく役割を担える人材の養成」、日本文化学科が「和」の心を基盤に、理論と実技の両面から日本文化を理解し、世界に向けて日本文化を発信できる人材の養成」である。つまり、「現代社会とそれを取り巻く国際社会の動態に鋭く反応できる見識と教養を備えた女性の養成」を目指しており、本学の目的である「教養ある女性の養成」に整合的な学部である。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2018/07/h30ap_cp_dp.pdf)
(概要) 教学マネジメント会議において、卒業の認定に関する方針として建学の精神に基づいたディプロマ・ポリシーを策定し、ホームページ上に公開している。 学生の卒業にあたっては、ディプロマ・ポリシー及び学科毎に定められた単位数の修得状況を踏まえて卒業判定会議を行い、そこで承認された者について卒業を認定し、学位を授与している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2018/07/h30ap_cp_dp.pdf)
(概要) 【教育課程の編成】 文学部は国際英語学科、史学科、心理学科、日本文化学科を設置し、各学科が全学共通科目と学科専門科目を体系的に配置する。 【学修方法・学修過程】 全学共通カリキュラムによる教養教育と職業人教育に加えて、各学科の専門科目を初年次から履修可能とする。 学年進行とともに、順次性のある専門的な科目を配置し、卒業論文を必修とする。 少人数のゼミナールを低年次から高年次まで導入する。 各学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、実習科目を中心とするアクティブラーニングによって体験的、主体的に学修を行う。 取得単位数の上限を設定し (CAP制)、学生の学修を支援する。 【学修成果の評価の在り方】 GPAによる成績評価を運用し、適切な評価を行う。 各学生の学修の展開と成果を学修ポートフォリオによって評価する。 実習の記録などを通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。 ルーブリックにより、基礎的な学力、思考力、主体的な協働を評価する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2018/07/h30ap_cp_dp.pdf)

(概要) アドミッションポリシー

<国際英語学科>

国際英語学科では、「(1) 高度な英語力」、「(2) 世界各国の言語や文化と国際関係に関する知識」、「(3) 情報化時代に対応できるコミュニケーションスキル」をそなえ、国際社会においてビジネス、教育、文化活動、ボランティアなど様々な領域で活躍できる人材の育成を目指しています。とくに、学びの場を学内から実社会へと広げる「アクティブ・ラーニング」による育成を重視します。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

1. TOEIC700 点以上、英検準1級以上の英語力を身につけ、さらに英語で意見を発信したりディスカッションしたりする実践的スキルを磨きたい人
2. 海外留学やインターンシップを通して、世界各国の言語や文化・習慣、また国や民族どうしの関係を理解し、それらに的確に対処しつつ活動できる「国際人」になりたい人
3. グローバル時代の高度情報化社会においてコミュニケーションにいかなる問題が生ずるかを理解し、的確に情報を集め、効果的なメッセージを発信する力を身につけたい人
4. 中学校・高等学校の英語教員免許、児童英語指導員の資格をとり、さらに採用試験に合格する実力を身につけたい人

<史学科>

史学科では、世界と日本の歴史・地理に関する幅広い知識と深い洞察力を備えた人材の育成を目指しています。

そのために、日本はもちろん、アジア、ヨーロッパなど世界各地で開花した文明の歴史と地理を学ぶ多彩なカリキュラムを用意しています。将来を見通すことが難しい今日、正確な知識に裏打ちされた豊かな歴史像をもち、自由に発想し、社会に貢献しようとする意欲に燃えている、そのような人材を育成したいと考えています。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

1. 歴史に興味を持ち、史料の解釈を通して、歴史にロマンをいどころとする人
2. 様々な文明に興味を持ち、異文化を尊重する人
3. 歴史をアクティブに捉え、学校や博物館で歴史教育に従事しようとする人

<心理学科>

心理学科では、心の科学である心理学を学ぶことによって、人々を援助し、社会に貢献し、自己の人生を豊かにする知識、技能、態度を身に着けることができます。そのため本学科では心理学の諸領域を網羅するような広い範囲の学習からスタートして、各自の専門を深めていくという学習をすすめています。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

1. すなおな探究心を持ち、心について科学的なアプローチが出来る人
2. 豊かな感性と他者を思いやる心を持って、人を癒したり、育むことのできる人
3. 心理学の知識や技能を生かして社会で活躍し、貢献したいと思っている人

<日本文化学科>

日本文化学科では、日本文化への造詣を深めることにより、バランスの取れた知性と豊かな表現力、そして繊細でしなやかな共生能力を備えた人材の育成を目指しています。具体的には、日本語、日本文学・文化、日本美術、日本の民俗・伝統芸能を柱とし、全体に比較の視点を入れた多彩なカリキュラムにより、日本文化の継承・伝達に貢献できる人材の育成を目的としています。さらに、理論科目だけでなく、「華道」「茶道」「書道」「日本舞踊」「日本画」「能の仕舞・謡い」の実技科目を用意し、日本文化の独自性を世界へ発信できる能力の養成にも力を入れています。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

1. 日本のことば・文学に関する理解を深めたいと考えている人
2. 日本の美術・民俗・芸能に関する理解を深めたいと考えている人
3. 茶道・華道・能・日本舞踊・書道・日本画について、実技・実習も含めて理解を深めたいと考えている人

学部等名 教育学部
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/h30jikotennken.pdf P11）</p> <p>（概要）教育学部は、幼児教育学科・児童教育学科からなる。幼児教育学科は、「社会人としての基礎的教養を土台として、幼児教育と保育に関する専門的な知識・技術を修得し、この能力を活かして、広く社会に貢献する人材の養成を目的」とし、児童教育学科は「教育に関する専門的な知識・技能・態度を修得し、様々な教育問題に適応できるコミュニケーション能力と実践能力のある人材の養成を目的」とする。 伝統的に女性が自らの教養を基に活躍してきた分野である次世代を「育む」ための指導者・教員を養成することを中心としており、本学の目的である「教養ある女性の養成」と「社会に貢献しうる女性の養成」に整合的である。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2018/07/h30ap_cp_dp.pdf）</p> <p>（概要） 教学マネジメント会議において、卒業の認定に関する方針として建学の精神に基づいたディプロマ・ポリシーを策定し、ホームページ上に公開している。 学生の卒業にあたっては、ディプロマ・ポリシー及び学科毎に定められた単位数の修得状況を踏まえて卒業判定会議を行い、そこで承認された者について卒業を認定し、学位を授与している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2018/07/h30ap_cp_dp.pdf）</p> <p>（概要） 【教育課程の編成】 教育学部は幼児教育学科、児童教育学科を設置し、各学科が全学共通科目と学科専門科目を体系的に配置する。 【学修方法・学修過程】 全学共通カリキュラムによる教養教育と職業人教育に加えて、各学科の専門科目を初年次から履修可能とする。 学年進行とともに、順次性のある専門的な科目を配置し、卒業研究を必修とする。 少人数のゼミナールを低年次から高年次まで導入する。 各学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、実習科目を中心とするアクティブラーニングによって体験的、主体的に学修を行う。 資格取得を踏まえた取得単位数の上限を設定し（CAP制）、学生の学修を支援する。 【学修成果の評価の在り方】 GPAによる成績評価を運用し、適切な評価を行う。 各学生の学修の展開と成果を学修ポートフォリオによって評価する。 実習の記録などを通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。 ルーブリックにより、基礎的な学力、思考力、主体的な協働を評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2018/07/h30ap_cp_dp.pdf）</p>

(概要) アドミッションポリシー

<幼児教育学科>

幼児教育学科は、幼稚園教諭や保育士の免許や資格が取得できる学科です。保育現場では子どもたちと遊ぶ中で、子どもを育てていきます。一般的には、とても楽しそうな職業のように思われがちですが、いろいろな年齢の様々な性格の子どもたちに対応していくには、専門的な知識が必要です。4年間の中で、子どもの発達についての理論を学んだり、子どもを楽しませる技術を学んだり、保育所や幼稚園の実習を通して、子どもの成長をしっかりバックアップできる学習や研究をしていきます。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

1. 子どもと共に生きることができる自覚ある保育者を目指す人
2. 全ての《ひと・もの・こと》に感謝できる保育者を目指す人
3. 幼稚園教諭・保育士・施設職員を目指す人

<児童教育学科>

児童教育学科では、建学の精神である「感謝の心」を備え、小学校教師としての使命と責任をもち、情熱をもって取り組む教育実践力のある小学校教員の養成を行います。本学科では、一人ひとりの児童の個性や可能性を引き出せる先生、確かな学力と豊かな感性を育むことのできる先生、児童との心の触れ合いを通じて児童と共に学ぶことができるコミュニケーション能力をもつ先生のように、時代をリードできる小学校教員の養成を目指しています。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

1. 小学校教師としての使命と責任をもち、情熱をもって取り組む小学校教師としての幅広い教養と専門性を身につけたい人
2. 小学校教師としての専門的な知識・技能を身につけるとともに、児童の個性や適性を引き出し、確かな学力を育成できる教育実践力を身につけたい人
3. 児童一人ひとりの心を理解でき、いじめや不登校など、さまざまな教育問題に適切に対応できるコミュニケーション能力を身につけたい人

学部等名 生活創造学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/h30jikotennken.pdf P12）
（概要） 生活創造学部は、生活文化学科・観光文化学科からなる。生活文化学科の人材養成の目的は、「栄養・健康・ライフデザインに関する専門的知識を修得し、社会、学校、家庭の場において、食への指導力・実践力を有する人材の養成」であり、観光文化学科は、「観光についての幅広い知識、洞察力、企画力、さらには日本と海外の歴史・文化に関する知識及び外国語コミュニケーション力を修得し、ホスピタリティ産業で活躍できる人材の養成」である。このように、生活全般の豊穡化に関する教養を涵養したうえで、実践的能力の獲得を目指しており、本学の目的である、「教養ある女性の養成」と「社会に貢献しうる女性の養成」に整合的である。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2018/07/h30ap_cp_dp.pdf ）
（概要） 教学マネジメント会議において、卒業の認定に関する方針として建学の精神に基づいたディプロマ・ポリシーを策定し、ホームページ上に公開している。 学生の卒業にあたっては、ディプロマ・ポリシー及び学科毎に定められた単位数の修得状況を踏まえて卒業判定会議を行い、そこで承認された者について卒業を認定し、学位を授与している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2018/07/h30ap_cp_dp.pdf ）
（概要） 【教育課程の編成】 生活創造学部は生活文化学科、観光文化学科を設置し、各学科が全学共通科目と学科専門科目を体系的に配置する。 【学修方法・学修過程】 全学共通カリキュラムによる教養教育と職業人教育に加えて、各学科の専門科目を初年次から履修可能とする。 学年進行とともに、順次性のある専門的な科目を配置し、卒業研究を必修とする。 少人数のゼミナールを低年次から高年次まで導入する。 各学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、実習科目を中心とするアクティブラーニングによって体験的、主体的に学修を行う。 取得単位数の上限を設定し（CAP制）、学生の学修を支援する。 【学修成果の評価の在り方】 GPAによる成績評価を運用し、適切な評価を行う。 各学生の学修の展開と成果を学修ポートフォリオによって評価する。 実習の記録などを通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。 ルーブリックにより、基礎的な学力、思考力、主体的な協働を評価する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2018/07/h30ap_cp_dp.pdf ）

(概要) アドミッション・ポリシー

<生活文化学科>

生活文化学科では、建学の精神である「社会に貢献できる自覚ある女性」を目指し、実践力と文化的感性を身につけた社会学士の栄養士と栄養教諭を育成します。多くの女性が活躍している栄養士は、赤ちゃんから高齢者のすべての年齢層を対象とする職業です。現代社会で起こっている食と健康の問題を解決するためには、栄養・健康科学だけでなく、幅広い社会感覚を身につけるための知識や技術が不可欠です。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

1. 社会の一員としての自覚を持ち、健全な社会の構築に栄養士・栄養教諭として貢献しようとする意志を持った人
2. 多様化した社会を理解し、健康をサポートする栄養指導や地産地消を念頭に置いた商品開発などを通じて、地域社会と積極的にかかわっていききたい（いこう）と考えている人
3. 栄養士・栄養教諭資格取得に加え、フードスペシャリストや医療秘書実務士の資格取得など、充実した大学生活を送ろうと考えている人

<観光文化学科>

観光文化学科では、インバウンド（外国人旅行者）対応力を育成し、観光業を中心に社会の実践力となる人材の養成を目指しています。これからの日本では、外国人との交流が急増します。また、インバウンド対応力は観光業をはじめ、多くの業界で求められるため、本学科では広くサービス業全体で活躍できる人材を育成したいと考えています。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

1. インバウンド対応に関心を持ち、将来、観光や広くサービス業の分野で働きたい人
2. 旅行が好きで、日本や世界の観光、歴史・文化に大きな関心を持っている人
3. 他の国や地域の人々との交流に関心を持っている人
4. 人に接すること、人を喜ばせることに何より燃えることの出来る人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/guide/disclosure/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
文学部	—	15人	9人	6人	1人	0人	31人
教育学部		7人	9人	2人	0人	1人	19人
生活創造学部	—	10人	6人	5人	0人	3人	24人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			110人				110人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.kgwu.ac.jp/guide/disclosure/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教員の資質・能力向上の取り組みとして「学生による授業評価アンケート」「教員相互の授業参観」をそれぞれ半期毎に実施し、FD研修は年に2～3回実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	140人	179人	127.8%	600人	537人	89.5%	欠員の範囲	3人
教育学部	120人	60人	50.0%	480人	299人	62.3%	欠員の範囲	1人
生活創造学部	100人	90人	90.0%	460人	298人	64.8%	欠員の範囲	1人
合計	360人	329人	91.4%	1540人	1134人	73.6%	欠員の範囲	5人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	75人 (100%)	1人 (1.3%)	60人 (80.0%)	14人 (18.7%)
教育学部	83人 (100%)	0人 (0%)	74人 (89.2%)	9人 (10.8%)
生活創造学部	84人 (100%)	0人 (0%)	70人 (83.3%)	14人 (16.7%)
合計	242人 (100%)	1人 (0.4%)	204人 (84.3%)	37人 (15.3%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) カスミ、常陽銀行、千葉県教育委員会、東武トップツアーズ、野田市役所、LEOC、レナウン
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	93人 (100%)	75人 (80.6%)	4人 (4.3%)	14人 (15.1%)	0人 (0%)
教育学部	85人 (100%)	82人 (96.5%)	0人 (0%)	1人 (1.2%)	1人 (1.2%)
生活創造学部	86人 (100%)	83人 (96.5%)	1人 (1.2%)	2人 (2.3%)	1人 (1.2%)
合計	264人 (100%)	240人 (90.9%)	5人 (1.9%)	17人 (6.4%)	2人 (0.8%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 12月にシラバス作成に関するFD研修を開催する。 各教員はFD研修の内容及び「シラバス作成のためのガイドライン」に基づき、1月中にシラバスの入稿を行う。 入稿期間終了後、学科長等がシラバスの内容確認・修正指示を行い、シラバスの内容に不備のあった教員は修正を行う。 全シラバスの入稿が完了する3月中旬から下旬にホームページ上にシラバスを公開している。

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 各学生の学修成果を、学生の授業への取り組む姿勢・試験結果・レポートの内容・卒業論文・ルーブリックによる評価等により多角的に把握している。 上記の方法により把握した学生の学修成果を、シラバスに記載された成績評価の方法及び基準により、厳格かつ適正に評価して単位を与えている。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	国際英語学科	124単位	④・無	48単位
	史学科	124単位	④・無	48単位
	心理学科	124単位	④・無	48単位
	日本文化学科	124単位	④・無	48単位
教育学部	幼児教育学科	124単位	④・無	48単位
	児童教育学科	124単位	④・無	48単位
生活創造学部	生活文化学科	124単位	④・無	48単位
	観光文化学科	124単位	④・無	48単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法: https://www.kgwu.ac.jp/guide/disclosure/ircenter/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2019/04/2019_kouchi_kousya.pdf

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
文学部	国際英語 学科	696,000 円	300,000 円	337,000 円	
	史学科	696,000 円	300,000 円	328,000 円	
	心理学科	696,000 円	300,000 円	345,000 円	
	日本文化 学科	696,000 円	300,000 円	337,000 円	
教育学部	幼児教育 学科	696,000 円	300,000 円	345,000 円	
	児童教育 学科	696,000 円	300,000 円	345,000 円	
生活創造 学部	生活文化 学科	696,000 円	300,000 円	337,000 円	
	観光文化 学科	696,000 円	300,000 円	337,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

- (1) 入学、休学、転学、留学、退学、除籍及び卒業等学籍に関する事項
- (2) 学科目履修に関する事項
- (3) 時間割の編成及び授業の実施に関する事項
- (4) 学生の出欠席に関する事項
- (5) 試験及び成績に関する事項
- (6) 学生便覧に関する事項
- (7) 聴講生及び外国人留学生等に関する事項
- (8) 教育職員免許に関する事項
- (9) 教室、演習室、ゼミ室、実験実習室等の授業のための運用調整に関する事項
- (10) 課外教育及び公開講座に関する事項
- (11) 教授会の事務に関する事項
- (12) 教育にかかる施設、設備、教育機器、備品の使用に関する事項
- (13) その他教務に関する事項

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

本学では一人ひとりと向き合う個別指導を基本とし、各種講座やガイダンス、講師を招いてのライブトークを開催。就活生を勇気づけ、活動がスムーズに進められるよう支援しています。特に就職委員の教員・ゼミ担当教員が密に連絡を取り情報を共有し、それぞれの学生に寄り添ったサポートをとっています。特別講演会では、各業界を代表する方々を招き、業界の動向、企業の求める人材等をお話いただき、理解を深めています。また、インターンシップへの参加を積極的に支援しています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

1. 我孫子キャンパス

(学生相談室)

専任の公認心理師・臨床心理士資格者を配置している。

学生生活全般における心身の健康、対人関係、性格・適性等の相談に関する事項

(健康支援室)

専任の看護師を配置している。

学生の健康診断、ケガ病気の応急処置、疾病予防、健康相談に関する事項

2. 目白キャンパス

(学生相談室)

非常勤の公認心理師・臨床心理士資格者を週2日配置している。

学生生活全般における心身の健康、対人関係、性格・適性等の相談に関する事項

(健康支援)

健康診断結果を受けて、有所見者に対して我孫子キャンパスの看護師が出向き、個別面談指導を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kgwu.ac.jp/guide/disclosure/>